

# 令和4年度生野区の取組み 振り返りについて (こどもの未来部会：抜粋分)

令和5年度 生野区区政会議  
第1回こどもの未来部会



令和5年6月14日（水）



# 目次

・子育てにやさしく、教育につよいまち	3
・（２－１）安心してこどもを産み育てることができる環境づくり	4
・（２－１－１）ライフステージに応じた子育て支援の充実	5
・（２－１－２）子育てが楽しくなるまちづくり	6
・（２－２）未来を生き抜く力の育成	7
・（２－２－１）次世代の学校づくり（学校配置の見直し）	8
・（２－２－２）次世代の学校づくり（「生野の教育」の実現）	9
・（２－２－３）まちの教育力を上げる	11

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題 2

子育てにやさしく、教育につよいまち

めざすべき将来像 (最終的なめざす状態:概ね10~20年間を念頭に設定)

生まれてから義務教育終了に至るまで「ひとりも取りこぼさない」仕組みにより、子育てしたい、教育を受けさせたいと思えるまち

主なSDGsゴール



現状 (課題設定の根拠となる現状・データ)

- ◆こども・子育て環境
  - <区内人口の推移>
    - ・区内人口は減少傾向にあるとともに、少子化が急速に進行している。
    - 平成17年国勢調査 138,564人 うち15歳未満人口割合 11.4%(15,744人)
    - 平成22年国勢調査 134,009人 うち15歳未満人口割合 10.6%(14,205人)
    - 平成27年国勢調査 130,167人 うち15歳未満人口割合 9.2%(11,982人)
    - 令和 2年国勢調査 127,309人 うち15歳未満人口割合 8.7%(11,098人)
  - <こども・子育て支援に関するニーズ等調査(平成30年度)>
    - ・子育てを「つらいと感じる」「少しつらいと感じる」との回答が、就学前児童で16.7%、就学児童で12.0%
    - ・子育てが地域の人や社会に支えられていると感じないと回答した人が、就学前児童で31.6%、就学児童で27.7%
  - <区政に関する区民アンケート>
    - ・子育てのしやすいまちであると「感じる」「どちらかと言えば感じる」と回答した人が、(H30)49.6%、(R1)52.2%、(R2)42.6% (R3)49.7%
  - <子どもの生活に関する実態調査(平成28年度)>
    - ・こどもに絵本を読み聞かせていると回答した人(5歳児保護者)が63.2%
- ◆学校教育環境
  - ・区内小学校の7割以上が教育環境に課題のある小規模校となっている。(学年あたりの平均学級数:本市平均2.1学級、区1.4学級)
  - ・学力課題が固定化している学校が多い。
  - <子どもの生活に関する実態調査(平成28年度実施)>
    - ・「学校のある日、授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、勉強しているか」との設問に対し「まったく勉強しない」と答える子どもの割合
      - 中2:区14.8%、市13.6% 小5:区7.1%、市6.8%
    - ・自分の将来の夢や目標を「持っている」「どちらかという持っている」と答える子どもの割合
      - 中2:区61.0%、市63.0% 小5:区84.1%、市84.1%

要因分析

- ◆こども・子育て環境
  - ・少子化、核家族化が進んでいる中、ニーズ調査等にも出できるように、安心して子育てできる環境が整っていない、子育てが地域や社会に支えられていないと感じられており、育児不安やストレスを感じた際に相談できる相手がおらず、孤立化してしまう危険がある。
  - ・絵本の読み聞かせが少なくなることにより、親子のコミュニケーションの希薄化やこどもの知的好奇心の発育不全につながっている。
- ◆学校教育環境
  - ・小規模校については、昭和50年と比べて区内の児童・生徒数は約74%減少している一方、学校配置の見直しが進んでいないため、学校あたりの児童生徒数が減少し、小規模校化が進む要因となっている。
  - ・学力課題に対して、自主学習習慣の確立を含め学校外での学びの機会が不足しており、学校の取組だけではこどもに多様な学びの機会を十分に提供することが難しい。

課題

- ◆こども・子育て環境
  - ・安心して子育てのできる環境を整えるため、子育て情報が容易に収集できる環境を整備するとともに、孤立化しがちな子育て世帯などが気軽に相談や交流できるような機会を提供するなどの支援を図っていくことが必要。
  - ・出生率が低く、少子化が急激に進行している現状を改善し、次世代を担う若い世代を呼び込むためには、区民だけでなく、区外の方々にも安心して子育てのできる環境をアピールすることが必要。
  - ・絵本読み聞かせの必要性や楽しさを知る機会を提供する等により、親子のコミュニケーションやこどもの知的好奇心を高める必要がある。
- ◆学校教育環境
  - ・学校の配置を見直し、小規模校を解消し、適正な教育環境を実現する必要がある。
  - ・学校における取組への支援と課外での学ぶ機会を確保し、こどもへの多様な学習機会を増やすことが必要である。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

- ◆こども・子育て環境
  - 安心して子育てできる環境が整っていると感じる区民の割合は、目標に到達していない。個々の子育て支援の取組については参加者から好評を得ていることから、「安心して」という設問項目に対し新型コロナウイルス感染拡大が続いたことや物価高などの社会不安が影響していると思われる。子育てに関する情報をより多くの区民に周知することにより、少しでも閉塞感の払しょくができればと考える。今後、子育て支援の情報発信をさらに進め、子育て支援機関・施設と連携し、子育てしやすいまちづくりを進めることが必要。
- ◆学校教育環境
  - 小中学校で、地域との連携や学校独自の取り組みなど特色ある学校づくりが進められていると感じる区民の割合は目標に達していないが、前年度よりも増加しており、一定の成果はあると考える。今後は学校の特色のある取組が進められる中、多世代の関心を得られる情報発信を進めることが必要。地域での学習体験等の機会があると感じる区民の割合は目標に達していないが、前年度よりも増加している。今後は基本的な感染症対策のうえ、環境整備の働きかけと情報発信を進める。

めざす状態 (概ね3~5年を念頭に設定)	戦略 (中長期的な取組の方向性)				戦略の 進捗状況	
次世代を担う子どもたちが健やかに育つための環境づくりや相談支援体制を作り、安心して子育てができるまちとなっている状態。	次世代を担う子どもたちが健やかに育つために、区民が安心して子どもを産み育てることができる環境や相談支援体制をつくとともに、子育てが楽しくなるまちづくりを進める。				順調でない	
アウトカム(成果)指標 (めざす状態を数値化した指標)	アウトカム指標の達成状況				課題 ※有効でない場合は必須	
安心して子育てができる環境が整っていると感じる区民の割合:令和4年度末までに80%以上	今年度	前年度	個別	全体	新型コロナウイルスの状況や物価高などの社会不安により、安心して子育てができる環境になっていないと感じている。	
	47.5% 未達成	49.7% 未達成	順調でない	順調でない	<th data-bbox="1419 990 1982 1035">今後の方向性 ※有効でない場合は必須</th> <p data-bbox="1419 1035 1982 1221">現行の取り組みを地道に進めつつ、情報発信やイベントなどを通じ、子育て家庭同士または支援者等とのつながりにより、安心して子育てできる環境づくりをめざす。</p>	今後の方向性 ※有効でない場合は必須
<div data-bbox="911 1254 1160 1315" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     具体的取組                 </div>						

具体的取組 2-1-1

# ライフステージに応じた子育て支援の充実

計画(取組内容)

2決算額(3,560千円) 3予算額(4,457千円) 4予算額(6,270千円)

プロセス(過程)指標  
(取組によりめざす指標)

- ◇妊娠から出産、乳幼児期から就学期にわたる各ライフステージをトータルで支援
  - ・妊娠期から、保健師との顔の見える関係づくりによる継続した支援を行う。  
(大阪市版ネウボラ)
  - ・子育て支援機関等と連携し、適切な機関につなげる。  
「生野区子育て支援会議」を開催し、情報共有・事例検討等連携を進める(6回開催)
  - ・生野区子ども地域包括ケアシステムの運営により、地域団体等の連携を進め、子育て世帯への支援体制強化に取り組む。
- ◇区民が安心して、子どもを産み育てることができる環境づくり
  - ・発達障がい児等支援  
各健康診査や子育て相談時に、発達障がい児またはその疑いのある子を早期に発見し、療育支援に取り組む。

健診フォロー教室に参加した養育者について、こどもの養育に参考になったなど肯定的に感じた養育者の割合90%以上

【撤退・再構築基準】  
上記割合が60%未満であった場合、事業を再構築する

自己評価	プロセス指標の達成状況		当年度の実績	前年度までの主な実績
	中間	年度末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師の似顔絵と担当地域を示したチラシをR4.6月広報紙に掲載及び、母子手帳交付時に配布</li> <li>・1歳6か月児健診フォロー教室「すくすく」開催:前期5組 後期5組</li> <li>・健診フォロー教室等に参加した養育者について、こどもの養育に参考になったなど肯定的に感じた養育者の割合:100%(R4)</li> <li>・生野区子育て支援会議:6回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師の似顔絵と担当地域を示したチラシをR3.6月広報紙に掲載及び、母子手帳交付時に配布</li> <li>・1歳6か月児健診フォロー教室「すくすく」:6組(R2) 新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止(R3)</li> <li>・生野区子育て支援会議:4回(R2)、6回(R3)</li> <li>・健診フォロー教室等に参加した養育者について、こどもの養育に参考になったなど肯定的に感じた養育者の割合:100%(R2)、100%(R3)</li> </ul>
	取組:予定どおり進捗している	取組:予定どおり実施		
	目標:達成(見込)	目標:達成		
戦略に対する取組の有効性		課題と改善策 ※「目標未達成」、「取組が有効でない」場合は、必須		
中間	年度末	中間	年度末	発達障がいの疑いのある児童を対象にした教室は、今後も感染症対策を徹底しながら継続した取り組みとして実施していく。
有効であり、継続して推進	有効であり、継続して推進	—		

具体的取組 2-1-2

子育てが楽しくなるまちづくり

計画(取組内容)

2決算額(679千円) 3予算額(1,313千円) 4予算額(1,313千円)

プロセス(過程)指標  
(取組によりめざす指標)

◇子育てを支援することに加え、子育てがより楽しくなるような仕掛けづくり

- ・「生きるチカラを育む絵本プロジェクト」  
絵本サポーターの発掘・育成  
生野区絵本ダイアリー「いくみんのほんだな」の発行
- ・「子育て応援イベント いくのっ子広場」(1回以上開催)
- ・子育て講演会の開催(1回以上開催)



- ①「子育て応援イベント いくのっ子広場」  
・子育て応援イベント参加者数の平均が前年度実績以上

- ②「生野区子育て情報サイトでの積極的な情報発信」  
・生野区子育て情報サイトのアクセス数を前年度実績以上

◇まちぐるみ子育て宣言

子育て宣言に沿った「まちぐるみの子育て」の実施地区を拡大

◇生野のまちで子育てしたくなるよう積極的な情報発信

「生野区子育て情報サイト"いくの de 育~の"」などを活用して、地域の子育て支援情報などを効果的に発信するとともに、更なる充実を図る。

【撤退・再構築基準】

- ①イベント参加者数の平均が前年度実績の75%以下であった場合事業を再構築する。
- ②上記アクセス数が前年度実績の75%以下であった場合、事業を再構築する。

自己評価	プロセス指標の達成状況		当年度の実績	前年度までの主な実績	
	中間	年度末	・いくのっ子広場(9月開催:156名参加、1月開催:163名参加) ・いくのっ子おさんぽらりー(11月開催:764名参加) ・公民連携による子育て支援イベント(11月開催) ・生野区子育て情報サイト アクセス数:7,879件 ・子育て講演会オンライン開催:2回+R3作成分再配信2回	・いくのっ子おさんぽらりー(子育て応援イベント) 参加者:720名(R2)、901名(R3) ・生野区子育て情報サイト アクセス数:8,149件(R2)、8,741件(R3)【計測不能の8月分は前後の平均値】 ・絵本ダイアリー「いくみんのほんだな」:R2作成、R3改訂・配布(3月) ・子育て講演会オンライン開催:1回(R2)、2回(R3) ・「生野区まちぐるみ子育て宣言」賛同団体:96団体(R3)	
	取組:予定どおり進捗している	取組:予定どおり実施			
	目標:達成(見込)	目標:未達成	戦略に対する取組の有効性		
	中間	年度末	課題と改善策 ※「目標未達成」、「取組が有効でない」場合は、必須	中間	年度末
	有効であり、継続して推進	有効であり、継続して推進	—	—	・子育て応援イベントは開催されたイベントが異なり、前年度に比べ参加者数が減少している。また、R2年度以降の参加者数を見ると期待される上限近くで推移していると考えられるが、広報等の工夫により多くの参加者を募る。 ・子育て情報サイトのアクセス数は、区内で行われている子育て関連の行事が、新型コロナウイルスの影響で減少しており、検索が少なくなっているのが原因と考えられ、今後順次再開されると増えていくと考える。

めざす状態 (概ね3~5年間に念頭に設定)	戦略 (中長期的な取組の方向性)	戦略の 進捗状況
<p>生野のまちで学び育つ子どもたちが、確かな基礎学力のもと、広い視野をもって、社会や人生が変化しても、課題を発見し解決していく力を身につけている状態</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域住民と具体的かつ丁寧に意見交換を重ねながら、区西部地域の学校再編を進める。</li> <li>基礎学力を身につけ、学び続けるための「自立(自律)学習」、自分を知り視野を広げ目標を持つための「キャリア教育」、教育活動をサポートする外部連携を充実させる「チーム学校」を3つの柱に、教育環境の充実を図る。</li> <li>地域の生涯学習活動や生涯学習推進員を支援し、生涯学習に取り組む区民が学習の成果を地域に還元できるよう支援する。</li> <li>子どもが地域の大人に学ぶことで、多世代交流を図る。</li> </ul>	<p>順調でない</p>

アウトカム(成果)指標 (めざす状態を数値化した指標)	アウトカム指標の達成状況				戦略のアウトカムに対する有効性	課題 ※有効でない場合は必須
	今年度	前年度	個別	全体		
<ul style="list-style-type: none"> <li>区内の各小中学校で、地域との連携や学校独自の取り組みなど特色ある学校づくりが進められていると感じる区民の割合:令和4年度末までに80%以上</li> </ul>	44.0% 未達成	42.5% 未達成	順調でない	順調でない	有効であり、継続して推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世代は学校に対して関心が高いが、他の世代でも学校に関心を持ってもらえるようにする必要がある。また、コロナウイルス感染症の拡大防止のため、学校の取組に地域住民が連携したり、参加することができない状況があったため、特色ある学校づくりが進められていると感じることができなかったと考える。</li> <li>コロナウイルス感染症の影響が徐々に少なくなっているが、まだ、その影響は生涯学習ルームや地域の活動に残っており、以前のように戻っていないと考える。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だけでなく、地域でさまざまな学習、体験や交流ができる機会があると感じる区民の割合:令和4年度末までに50%以上</li> </ul>	40.2% 未達成	28.3% 未達成	順調でない	順調でない	有効であり、継続して推進	<p>今後の方向性 ※有効でない場合は必須</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後、学校環境を整え、取組が進められる中、多くの方に関心を持ってもらえるよう、情報発信を充実させる。</li> <li>地域での学習や交流機会があると感じる割合も前年度から増加しており、コロナウイルス感染症対策等、新しい生活様式が定着し、生涯学習や地域の活動が以前のように戻りつつあると思われ、今後、さらに活動の機会が増えると考ええる。</li> </ul>

## 具体的取組

2-2-1

次世代の学校づくり(学校配置の見直し)

2-2-2

次世代の学校づくり(「生野の教育」の実現)

2-2-3

まちの教育力を上げる

具体的取組 2-2-1

次世代の学校づくり(学校配置の見直し)

計画(取組内容)

2決算額(一 千円)3予算額(13,808千円)4予算額(76,226千円)

プロセス(過程)指標  
(取組によりめざす指標)

- 「北鶴橋小学校・鶴橋小学校 学校再編整備計画」に基づき、令和8年4月の再編実施に向け、保護者、地域住民等が参画する「学校適正配置検討会議」において、学校再編に向けて必要な事項の意見聴取を行う。
- 東桃谷小学校並びに勝山小学校を適正規模にするための計画案の作成をめざす。
- 学校再編に伴う環境整備  
児童の安全確保のため、児童の安全確保と居場所づくり事業や、通学路の安全対策等を行う。

大阪市学校活性化条例等の規定に基づき、学校適正配置対象校の学校再編整備計画(案)の作成。

【撤退・再構築基準】  
上記ができなかった場合、進め方を再構築する。

自己評価	プロセス指標の達成状況		当年度の実績	前年度までの主な実績	
	中間	年度末	<ul style="list-style-type: none"> <li>北鶴橋小学校・鶴橋小学校 学校適正配置検討会議開催</li> </ul>	【令和3年度】 ・大池小学校開校(令和3年4月開校:御幸森小・中川小の第1次再編) ・大池中学校区 学校適正配置検討会議での意見交換:4回開催 ・生野中学校区 学校適正配置検討会議での意見交換:5回開催 ・田島中学校区 学校適正配置検討会議での意見交換:6回開催 ・北鶴橋小学校・鶴橋小学校 学校再編整備計画策定 ・令和4年4月「小中一貫校大池学園」開校 ・令和4年4月「義務教育学校 生野未来学園」開校 ・令和4年4月「田島南小中一貫校」開校	
	取組:予定どおり進捗している	取組:予定どおり実施			
	目標:達成(見込)	目標:達成			
	戦略に対する取組の有効性		課題と改善策 ※「目標未達成」、「取組が有効でない」場合は、必須		
	中間	年度末	中間	年度末	
有効であり、継続して推進	有効であり、継続して推進	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校再編整備計画(案)の作成に向け、保護者・地域との意見交換を進めていく必要があるが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点等から、十分な話し合いの場を確保できていない。 引き続き、保護者・地域に対して丁寧な説明及び意見交換を経て、学校再編整備計画策定に向け取組みを進めていく。</li> </ul>		

## 具体的取組 2-2-2

## 次世代の学校づくり(「生野の教育」の実現)

## 計画(取組内容)

2決算額(4,220千円)3予算額(7,336千円)4予算額(4,193千円)

プロセス(過程)指標  
(取組によりめざす指標)

## ①学び支援事業

児童の学力状況の把握および自主学習習慣の確立や健康・体力の保持増進を目的に、模擬検定等の受検を学校が活用できる機会を提供する。

- ・区内小学校・義務教育学校 14校

## ②民間事業者等を活用した課外授業「いくの塾」(再掲)

生徒の自尊感情を醸成し、将来の夢や目標を持ち、その実現に必要な「自ら学ぶ力」と自主学習習慣の定着、基礎学力向上のための取組として、民間事業者等による課外授業を行なう。また事業者と学校の連携を図り、支援が必要な生徒を適切な支援につなぐ。

- ・7教室

## ③生きるチカラまなびサポート事業(再掲)

「キャリア教育」や「性・生教育」を支援する「生きるチカラまなびサポーター」を学校の要請に応じて派遣する。

- ・区内全市立小・中・義務教育学校

①事業実施後アンケートで学習意欲を問う設問について、肯定的な回答をする児童の割合を70%以上。

②事業参加前後アンケートで  
 ・「勉強へのやる気がある」という設問に対し、肯定的な回答する生徒の割合を増。  
 ・「1日にどれくらいの時間、学校以外で学習をしていますか」という設問に対し、「30分より少ない」、「全くしない」と回答する生徒の割合を半減。

③事業実施後アンケートで「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問について、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」といった否定的な回答をした受講者の割合を小学校、中学校とも6.0%未満。

## 【撤退・再構築基準】

- ①肯定的な回答をする児童の割合が50%未満の場合
- ②否定的な回答する生徒の割合が75%以上の場合、「30分より少ない」、「全くしない」と回答する生徒の割合が75%以上の場合
- ③否定的な回答の受講者の割合が小学生:7.1%、中学生:8.9%を超える場合  
それぞれ事業を再構築する。

具体的取組 2-2-2

次世代の学校づくり(「生野の教育」の実現)

自己評価	プロセス指標の達成状況		当年度の実績	前年度までの主な実績	
	中間	年度末	① 14小学校・義務教育学校中、11校で実施 【プロセス指標】79.7% ② 7教室で実施。受講者数80名 【プロセス指標】・47.2%→42.4%(勉強へのやる気) ・33.3%→2.9%(1日の学校以外の勉強時間) ③ 18小・中・義務教育学校に88回の講師派遣 【プロセス指標】小・義務教育学校2.8% 中学校3.3%	【令和3年度】 ① 全18小学校中15校で実施 ② 生野中学校・巽中学校・生野区民センターで「いくの塾」を開講、受講者数39名。大池中学校、東生野中学校、田島中学校、新生野中学校で「みらい塾」を開講、受講者数68名 ③ 17小中学校に44回の講師派遣	
	取組:予定どおり進捗している 目標:達成(見込)	取組:予定どおり実施 目標:①③達成 ②未達成			
	戦略に対する取組の有効性		課題と改善策 ※「目標未達成」、「取組が有効でない」場合は、必須		
	中間	年度末	中間	年度末	
	有効であり、継続して推進	有効であり、継続して推進	—	②の民間事業者等を活用した課外授業「いくの塾」について、1日の学校以外の学習時間は30分未満の生徒の割合が大幅に減り、学習習慣の定着は進んだが、学習意欲の向上にはつながらなかった。引き続き、学習時間も目安にしながらも「自ら学ぶ力」、学習意欲を高める課外授業となるよう、将来の夢や目標、受験や学校のテスト等、目標設定やその実現のプロセスをより重要視した課外授業を進める。	

具体的取組 2-2-3

# まちの教育力を上げる

計画(取組内容)

2決算額(476千円) 3予算額(1,168千円) 4算定見込額(1,079千円)

プロセス(過程)指標  
(取組によりめざす指標)

◇地域住民間の交流を促進することにより、コミュニティづくりに寄与し、生涯学習の推進を目的として、自主的な講習・講座等の学習機会の提供及び拡充や、文化・学習活動、発表、交流の場の提供をはかる。

- 区生涯学習ルームフェスティバルの開催
- 生涯学習ルームの開設
- 生涯学習推進員連絡会との連絡調整会議の開催
- 生涯学習ルームでの作品発表の場として、区役所等(区民ギャラリー等)での作品展示の実施



生涯学習ルームフェスティバル

生涯学習ルーム参加者アンケートの「区の生涯学習事業で学んだ内容を、地域行事等に活かすことができましたか」の問いに対し「できた」と答えた割合:60%以上

【撤退・再構築基準】  
上記割合が40%未満の場合、事業を再構築する。

自己評価	プロセス指標の達成状況		当年度の実績	前年度までの主な実績	
	中間	年度末	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 区生涯学習ルームフェスティバルの開催(2月5日)</li> <li>• 生涯学習ルームの開設(13校区)</li> <li>• 生涯学習推進員連絡会との連絡調整会議の開催(8回)</li> <li>• 『広報いくの』10月号に特集記事掲載</li> <li>• 生涯学習ルームの作品発表を区役所(区民ギャラリー)、区民センター(紫陽花ギャラリー)で計3回実施</li> <li>• プロセス指標 43.3%</li> </ul>	【令和3年度】 • 生涯学習推進員連絡会の開催:6回 • 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より中止(休止)となった区生涯学習フェスティバルや生涯学習ルームの補完事業(作品発表の場)として区役所(区民ギャラリー)、区民センター(紫陽花ギャラリー)、図書館(展示スペース)において、作品展示を実施。(随時)	
	取組:予定どおり進捗していない 目標:未達成(見込)	取組:予定どおり実施 目標:未達成			
	戦略に対する取組の有効性		課題と改善策 ※「目標未達成」、「取組が有効でない」場合は、必須		
	中間	年度末	中間	年度末	
有効であり、継続して推進	有効であり、継続して推進	—	コロナウイルス感染症の対策や環境整備を行い、生涯学習ルーム活動が再開されたが、その影響は大きく、まだ地域行事等へ活かす段階には至っていない。今後、さらに新しい生活様式が定着し、生涯学習活動が活発になり、また地域行の活動が以前のように戻れば、生涯学習事業が活かせることができると考える。		